



わらじ村長が築いた鹿島台 「安全で快適な地域社会をめざして」



宮城県大崎市 鹿島台まちづくり協議会
安全で快適委員会 委員長 千葉 榮

1 はじめに

大崎市は、宮城県の北西部に位置し、東西に約 80km の長さを持ち、奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された、広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有する四季折々の食材と天然資源、そして地域文化の宝庫です。平成 29 年 12 月 12 日「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」が「世界農業遺産」に認定されました。

鎌田三之助（わらじ村長）は、明治 42 年から 38 年間村長を務めた人物で、品井沼干拓に人生の多くを捧げた人でもありました。ひとたび雨が降ると大洪水となる品井沼の水を松島湾へ排出するための潜穴（くぐりあな）「明治潜穴」工事の陣頭指揮をとり、現在の美田広がる鹿島台地域の基礎を築きました。

鹿島台まちづくり協議会の安全で快適委員会は、南の玄関にぎわいのまちづくり計画として、地域の消防、交通、防犯、水害に強いまちづくりなど、安全で快適な暮らしを支える活動をしています。住みよい鹿島台をつくるために、平成 18 年 3 月の市町合併以前から 30 年近く取り組んでまいりました委員会の活動が認められ、令和 2 年 2 月 28 日に、栄えある「第 24 回防災まちづくり大賞（主催：総務省消防庁 共催：一般社団法人日本防火・防災協会）」の「日本防火・防災協会会長賞」を受賞いたしました。

2 令和元年台風第 19 号に伴う被害

令和元年 10 月 12 日（土）から 13 日（日）にかけて、関東地方を縦断し、東北地方の東海上に抜けた令和元年台風第 19 号（東日本台

風）は、大崎地方でも総雨量が 200mm を超えるなど、「昭和 61 年 8.5 豪雨」、「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」以上の記録的な豪雨となりました。

吉田川の堤防が決壊し、鹿島台地域では大規模な浸水や冠水被害をもたらし、住民の救助には、大崎消防・自衛隊のゴムボートや宮城・山形・札幌の消防ヘリコプター等による救助活動が行われました。また、浸水によるホームタンク等の転倒、農業用施設からの重油など、地区一帯に危険物と刈り取り後の稲わらが流出し処理活動は困難を極めました。住宅の後片付けには多くのボランティアに駆けつけていただきました。なかでも、鹿島台小学生、中学生は応援のメッセージカードを持って「ま



台風第 19 号、吉田川堤防決壊



災害ボランティア「まごころ届け隊（中学生）」

ごころ届け隊」として、高校生は災害復興の募金活動もしてくれました。

甚大な被害の中でも、死者が発生しなかったことは不幸中の幸いであり、安全で快適委員会の構成団体である消防団・婦人防火クラブ・交通・防犯・小中学校・住民との連携や自主防災組織の日頃の活動により地域住民が「命を守る行動」を理解し、積極的な避難行動を行った成果であると言えます。

3 鹿島台ぼうさい探検隊

小学生の視点で地域を探検して、防災・防犯・交通安全に関する様々な施設や設備、危険なところを発見する楽しく学べる活動です。公共施設をはじめ、調整池や用水路、子供110番の家などポイントに立ち寄り、インタビュー、写真撮影もしました。途中、テレビ局や新聞記者の取材を受けながらゴールしました。製作した防災マップは、日本損害保険協会が主催する「防災マップコンクール」



わらじ村長像「ぼうさい探検隊（小学生）」



小学校出前講座「台風が来たら、どうする」

に応募し2年連続入賞しています。

また、小学4年生「防災・減災」の学習では、消防署に台風第19号の被害について出前講座を依頼しました。台風発生から数日間の被害状況、ゴムボートの組立体験、救助の様子を写真で説明していただきました。県内でも防災の関心が高く、テレビ放送や新聞にも掲載されました。

4 復興、安全で快適な暮らし

鹿島台互市は、明治43年(1910年)から続き、今では東北最大級の規模を誇る伝統の市です。駅前の特設ステージでは、復興「火の用心・交通安全・秋の互市コンサート」を開催しました。小学校ブラスバンドの働く人「ワークマン」の演奏と交通安全の歌、中学生の災害ボランティア体験発表、高校生の火の用心広報・台風第19号募金活動により、地域住民に笑顔と元気を与えてくれました。



復興「火の用心・交通安全・秋の互市コンサート」

5 これから

過去の災害の記憶が薄れていくなか、市民一人ひとりが、防災についての知識と行動を身に付け、「自らの生命は自ら守る」ということを普段から心掛け、地震・水害に強いまちづくりとして、安全で快適な住みよい鹿島台をつくるために、まちづくり協議会が連携して「つなぐ・ささえる・はぐくむ」地域活動を、これからも継続して参ります。